令和３年２月15日

資料２

新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

**広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言**

【感染状況】

〇　県全体及び広島市内の新規報告数（直近１週間の10万対）は，いずれも減少傾向が続いており，２月５日には警戒基準値（4.0）を下回り，その後，安定して低い状態が続いている。他の指標についても同様の状況であることから，12月以降の集中対策における各種対策の効果が持続しているものと考えられる。

〇　全国の感染状況を見ると，全体として改善傾向にあるが，気候条件も鑑みて，感染の再拡大に繋がるリスクが依然存在するため，基本的な感染防止対策の徹底の継続（※）をしていくことが必要である。

　※「マスクの着用」「こまめな手洗い（手指消毒）」「３密（密閉，密集，密接）回避」の徹底を県民一人ひとりに呼びかける。＝行動変容で感染は防げる。

【医療提供体制】

〇　現状においては，感染状況が落ち着いており，病床のひっ迫具合も改善されている。

○　このような状況が維持されれば，医療提供体制のフェーズを今後段階的に下げることも検討する段階ではないかと考える。

〇　医療提供体制の見直しについては，引き続き対応医療機関への要請，後方支援病院の拡充等による，体制の再整備を行うため，関係者による意見交換等を通じて，共通認識の醸成を図り，各医療機関が担える役割を再確認することが必要である。

【クラスター対策】

〇　医療施設・介護施設等におけるクラスターの発生件数は，一時期と比べれば落ち着いてきているが，依然として長期化する施設が見受けられる。引き続き，施設内の感染防止対策と早めに探知し抑え込む対策の徹底が必要である。

〇　「医療・福祉クラスター対応班」の取組については，この時期を捉え，県内の二次医療圏ごとに対応可能な仕組みに向けて，関係機関が連携し，具体的な手順等を整えていく必要がある。

○　一方，直近でも，感染拡大リスクのある飲食店や職場等でのクラスターが発生していることから，その要因，発生状況を分析し，早めの探知で拡がりを抑え込むことが必要である。

【ステージ判断について】

〇　全県及び広島市における各種指標が警戒基準値を下回り，急拡大前の11月中旬の状況まで落ち着き，安定していることから，現状はステージⅠの状態にある。ただし，感染の再拡大に繋がるリスクは依然存在することから，その予兆を捉えられるよう十分な警戒が必要である。

【広島県の対処方針について】

○　12月以降取り組んできた集中対策については，一定の効果が現れ，感染状況が11月中旬の水準まで改善したことから，３次対策をもって終了してよいのではないかと考える。

○　今後，ステージⅠの状態を安定的に維持するため，対処方針に基づき，まずは基本的な感染対策を継続すること，積極的疫学調査の徹底により再拡大の発生を防止することが重要である。

○　対策の緩和による気の緩み，これまでのコロナ対策による慣れなどに伴う影響を最小限に留めるために，特に季節の行事等についても注意を促すなど，きめ細やかな感染防止対策について，随時情報発信していく必要がある。

○　感染の連鎖の芽を摘み，早期に感染拡大を防止するためには，その兆しをいち早く察知する必要があり，積極的疫学調査に加え，ＰＣＲセンターや医療機関の陽性率等の各種指標をモニタリングする仕組みを整え，次なる対策を検討することも考慮される。

○　ＰＣＲ検査の集中実施に当たっては，モニタリングで得られるデータから地域性や属性などを分析した上で，いつどこでどの範囲にどのように行うのかを判断する必要がある。ターゲットを絞る，あるいは地域の住民・就業者を網羅するなど様々な規模やメニューを検討しておくことは有効と考えられる。

【変異株への対応について】

○　全国的に新たな報告が相次いでいる変異株については，広島県保健環境センター及び広島市衛生研究所においてスクリーニング検査の体制が整ったことから，クラスター事例等を対象として，定期的に確認を行っていく必要がある。

○　さらに，民間検査機関の検体についても早急にスクリーニング検査の体制を整え，大学とともに県全体で幅広に検出可能な体制とすることが必要である。